4.2 底質と底生生物の現況

瀬戸内海の底質と底生生物の概況について、環境省実施調査である「瀬戸内海環境情報基本調査（平成 13 年～17 年度)」では、以下のように考察されている。主要な項目の水平分布図については、図 4－17～図 4－18 に示す。

なお、環境省では、瀬戸内海での底質調査を、これまで第１回（昭和 56～62 年度)、第２回（平成 3～8 年 度)、第３回（平成 13～17 年度）と約 10 年間隔で実施してきた（資－6 を参照)。底質と底生生物の調査結果は以下のとおりである。

(1) 底質

第３回調査における各湾・灘の底質の各項目の基本統計量（平均値）は、その 20 年前（第１回）の調査結果と比較すると、酸化還元電位を除いた各項目に大きな変化は見られなかった。

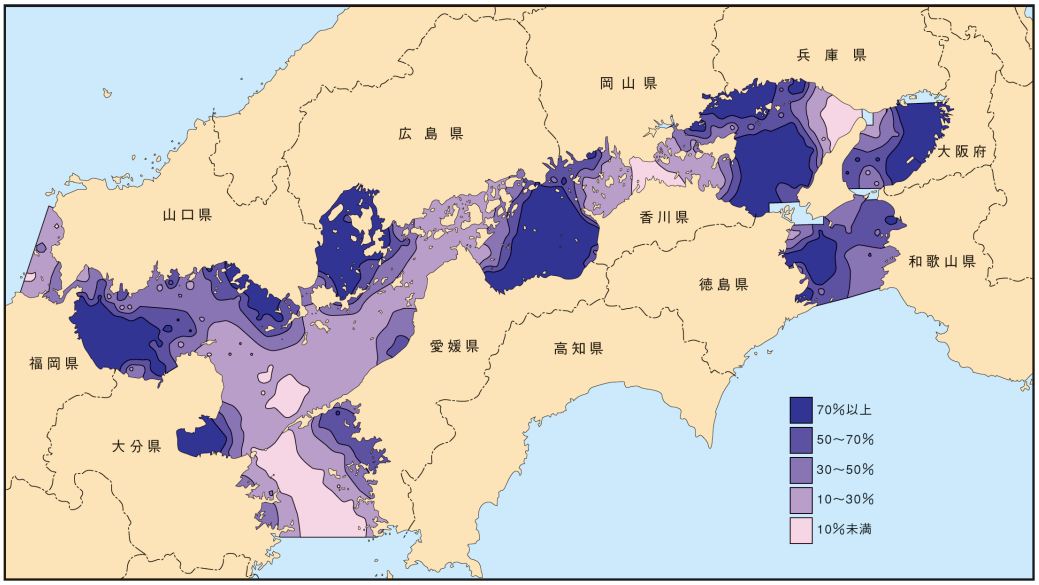
各湾・灘の類似性、及び 10 年間の変化を検討するため、底質の各項目を用いてクラスター分析を行い、10 年前（第２回）の調査結果と比較したところ、悪化している海域は見受けられず、全ての海域で改善の傾向が見られた。特に周防灘が顕著であった。

(2) 底生生物

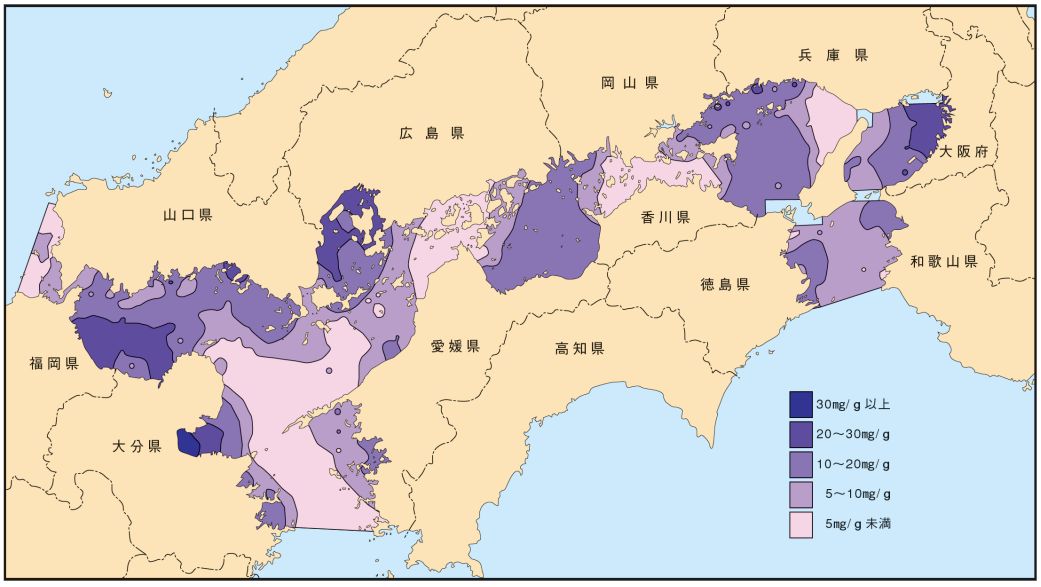
各湾・灘において、マクロベントスの種類数、多様度指数などを変数としたクラスター分析を行った結果、マクロベントスの豊かな安芸灘、マクロベントスの貧弱な別府湾、広島湾、及び大阪湾、その中間に位置するその他の海域に分類できた。

10 年前（第２回）の調査結果と比較すると、平均値の差について、統計的に有意な変化が見られたのは播磨灘（個体数が減少)、燧灘（種類数、及び個体数が減少)、紀伊水道（種類数が減少)、備讃瀬戸（種類数が増加)、豊後水道（種類数が増加)、安芸灘（種類数、及び個体数が増加）であった。

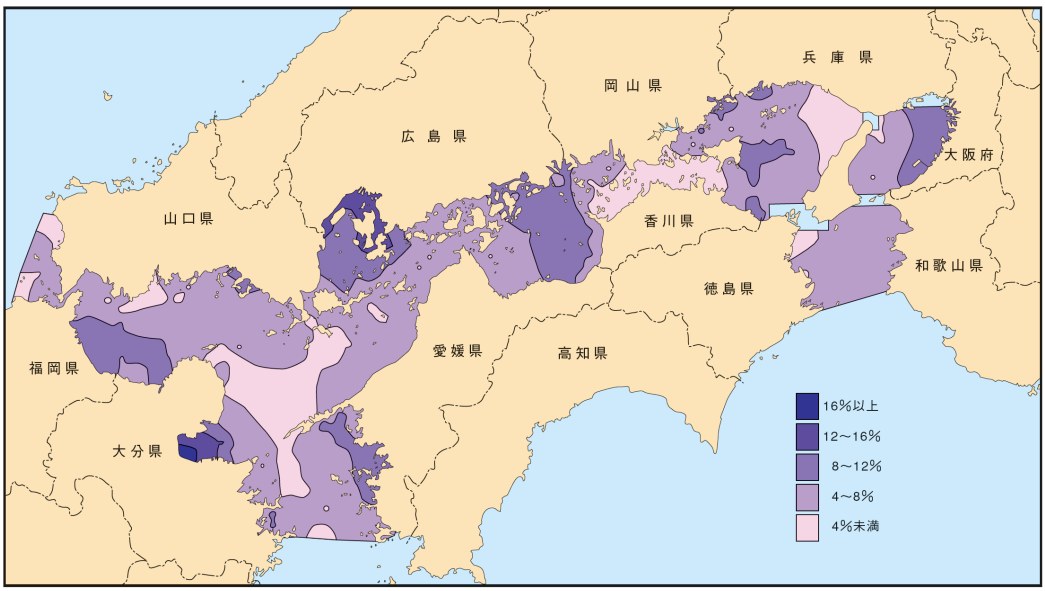
［含泥率］



［COD］



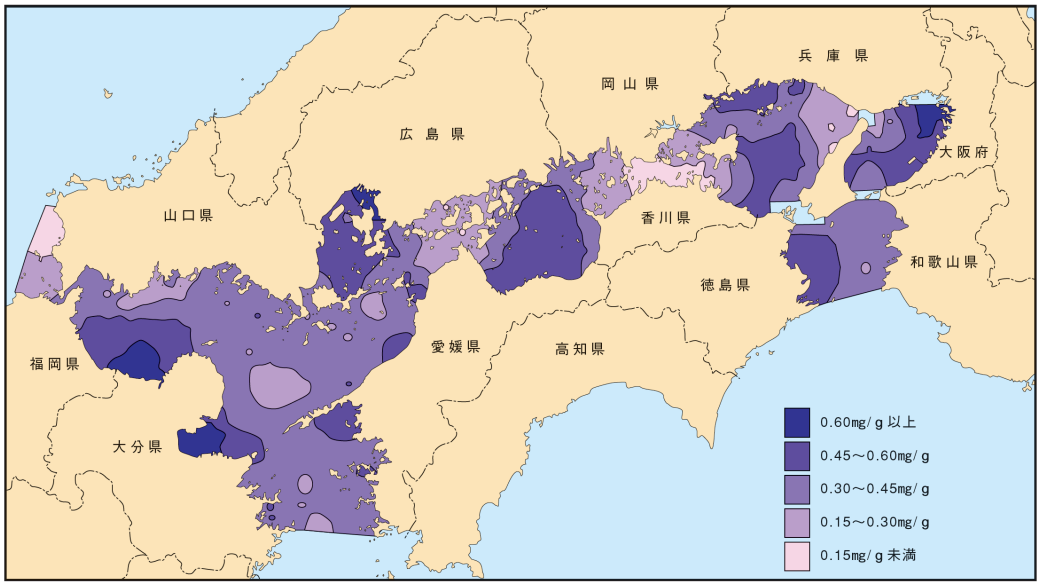
［強熱減量］



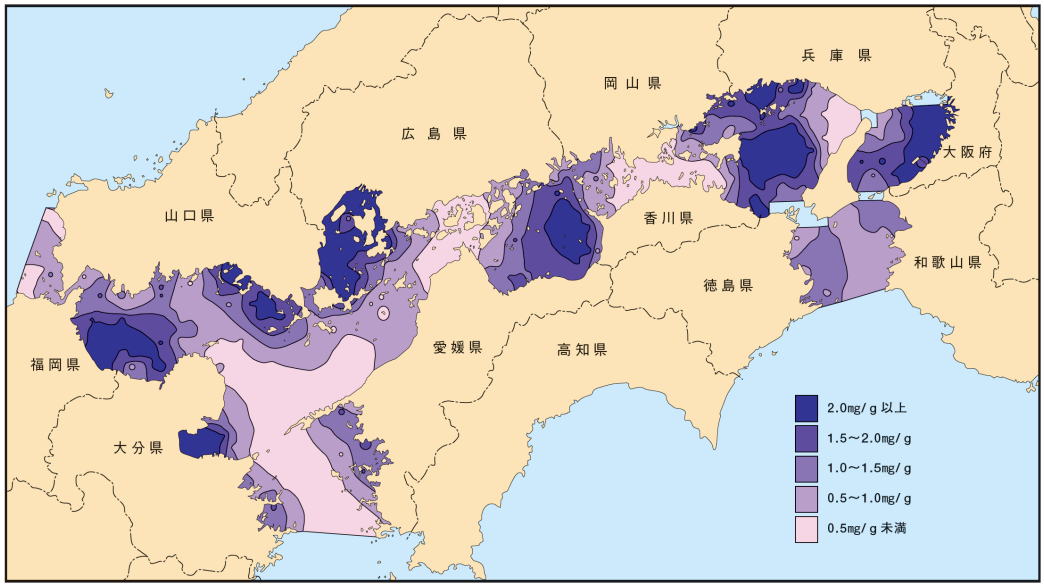
出典：平成 13～17 年度：「瀬戸内海環境情報基本調査」（環境省）より作成

図 4－17（1）底質分布図

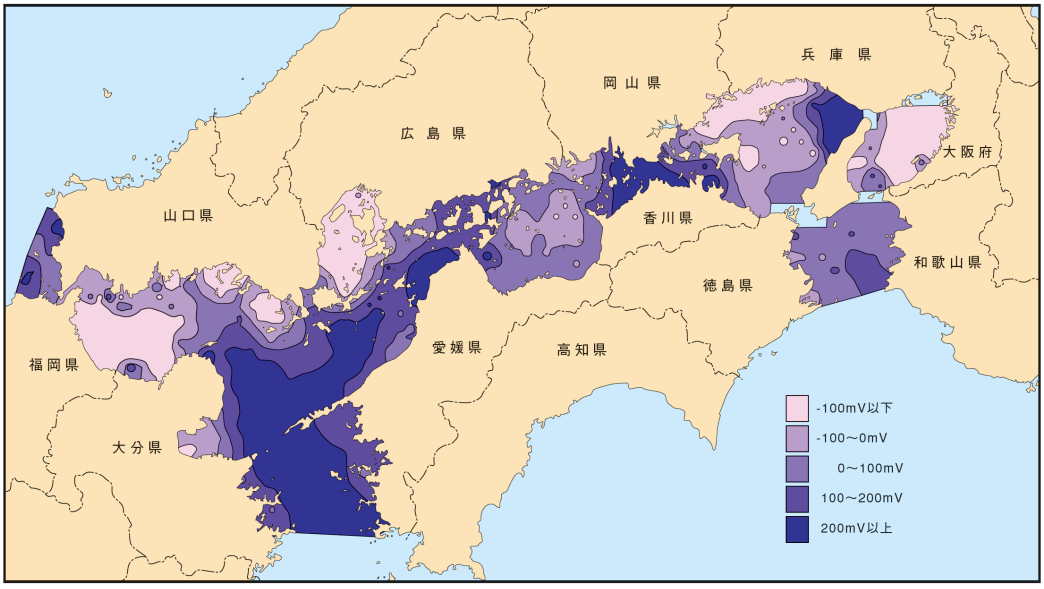
［全燐］



［全窒素］



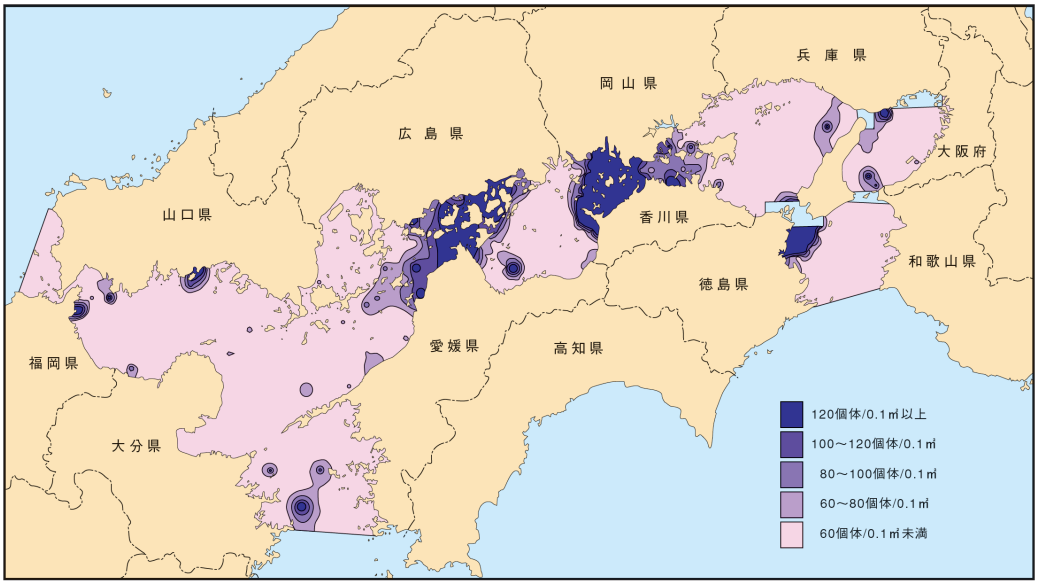
［酸化還元電位］



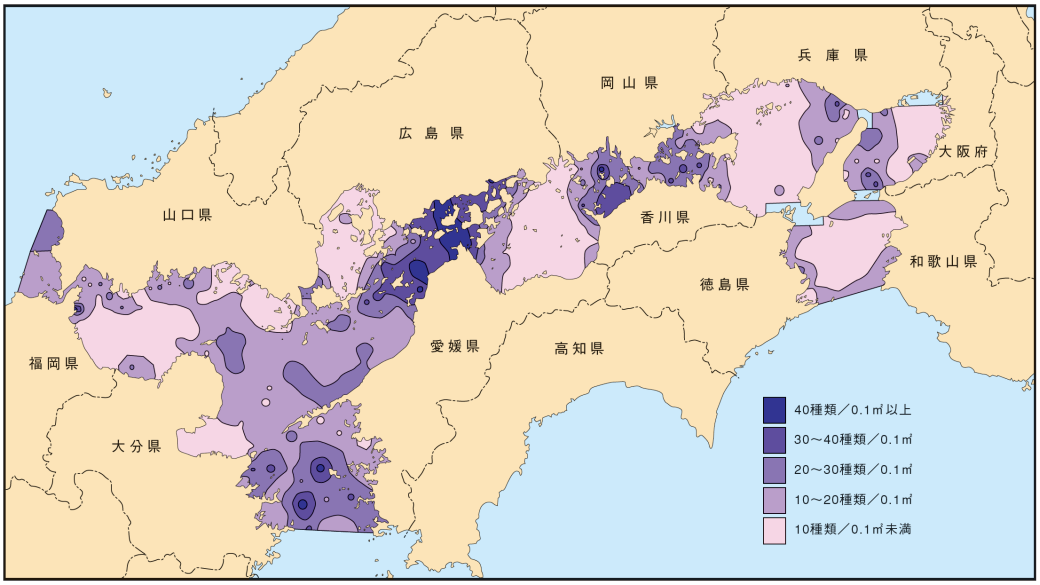
出典：平成 13～17 年度：「瀬戸内海環境情報基本調査」（環境省）より作成

図 4－17 （2） 底質分布図

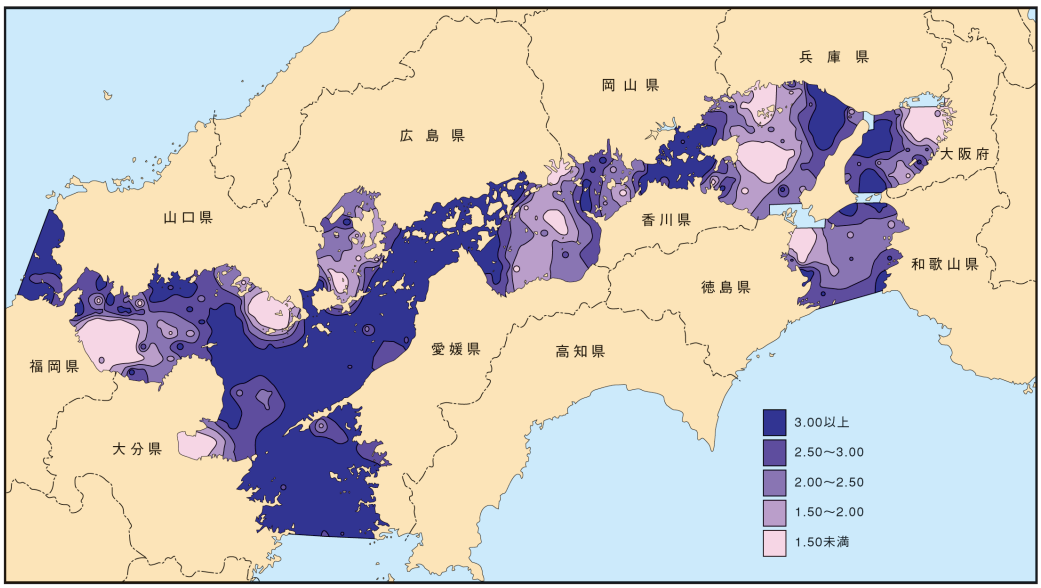
［ﾏｸﾛﾍﾞﾝﾄｽ個体数］



［ﾏｸﾛﾍﾞﾝﾄｽ種類数］



［ﾏｸﾛﾍﾞﾝﾄｽ多様性指数］



出典：平成 13～17 年度：「瀬戸内海環境情報基本調査」（環境省）より作成

図 4－18 底生生物分布図